2027 年度 東京科学大学病院皮膚科

A．専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で，皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる充分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に，皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し，関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり，患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として，医の倫理の確立に努め，医療情報の開示など社会的要望に応える。

B．プログラムの概要：

本プログラムは、東京科学大学病院を研修基幹施設として、総合病院土浦協同病院、地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立駒込病院、国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院、学校法人獨協学園獨協医科大学埼玉医療センター、獨協医科大学病院、社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合病院、医療法人鉄蕉会亀田総合病院、東邦大学医療センター佐倉病院、地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立多摩総合医療センター、草加市立病院、防衛医科大学校病院、国家公務員共済組合連合会九段坂病院、東京医療生活協同組合新渡戸記念中野総合病院、地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立大塚病院、武蔵野赤十字病院、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、医療法人徳洲会湘南藤沢徳洲会病院、横浜市立みなと赤十字病院、国立がん研究センター東病院を研修連携施設として、医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院 皮膚科、東京科学大学病院 形成外科を準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。
なお，本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目Ｊを参照のこと）

C．研修体制

研修基幹施設：東京科学大学病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）： 沖山　奈緒子　 専門領域：アレルギー、膠原病、自己免疫疾患

指導医： 並木　剛　 専門領域：皮膚外科手術、皮膚腫瘍

指導医： 藤本　智子　 専門領域：発汗異常

指導医： 稲澤　美奈子　 専門領域：発汗異常、脱毛

指導医： 飯田　忠恒　 専門領域：発汗異常、アレルギー

指導医： 小田　充思　 専門領域：乾癬、膠原病

指導医： 船積　雅登　 専門領域：創傷治癒、腫瘍

指導医： 竹下　八菜　 専門領域：発汗異常、創傷治癒

施設特徴：
専門外来として，乾癬，アレルギー（アトピー性皮膚炎、痒疹、蕁麻疹、食物・薬剤アレルギー），膠原病、血管炎・血管障害、発汗異常、白斑などの各専門外来を設けており，外来患者数は1日平均74名にのぼり，豊富な経験を積むことが可能。また，年間手術件数は入院・外来併せて１００名を超える。研究の面では，自己免疫疾患、腫瘍、白斑、発汗異常、アレルギーといったグループを作り，多様な研究結果を創出している。東京都内の特定機能病院、がん拠点病院、難病指定病院、東京都アレルギー疾患医療専門病院となっており，専門的医療を必要とする症例が集積する。

研修連携施設：総合病院土浦協同病院

所在地：茨城県土浦市おおつ野４丁目１番１号

プログラム連携施設担当者（指導医）：盛山　吉弘

特徴：地域の基幹病院であり、救急や皮膚外科、感染症などを中心に幅広い研修を行う。

研修連携施設：地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立駒込病院

所在地：東京都文京区本駒込3-18-22

プログラム連携施設担当者（指導医）：西澤　綾

特徴：がんと感染症を掲げる基幹病院であり、高度医療の研修を行う。

研修連携施設：国立研究開発法人　国立がん研究センター中央病院

所在地：東京都中央区築地5-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：並川　健二郎

特徴：皮膚悪性腫瘍のナショナルセンターであり、手術から化学療法、緩和ケアまでを包括した研修を行う。

研修連携施設：学校法人　獨協学園　獨協医科大学埼玉医療センター

所在地：埼玉県越谷市南越谷2-1-50

プログラム連携施設担当者（指導医）：林　周次郎

特徴：症例豊富な地域基幹病院であるとともに大学分院であり学術的な活動も併せて行える研修施設である。

研修連携施設：獨協医科大学病院

所在地：栃木県下都賀郡壬生町北小林880

プログラム連携施設担当者（指導医）：井川　健

特徴：県内のトップ基幹病院であるとともに、大学病院であって学術活動も活発である。アレルギー疾患や皮膚腫瘍を主体に研修を積む。

研修連携施設：社会福祉法人　恩賜財団　済生会支部　埼玉県　済生会　川口総合病院

所在地：埼玉県川口市西川口 ５－１１－５

プログラム連携施設担当者（指導医）：高山　かおる

特徴：地域基幹病院であり、皮膚一般診療に加え、フットケアなど特色ある医療の研修も行う。

研修連携施設：医療法人鉄蕉会　亀田総合病院

所在地：千葉県鴨川市東町929

プログラム連携施設担当者（指導医）：田中　厚

特徴：地域基幹病院であり、救急も含め豊富な症例を基盤とした皮膚科研修を行う。

研修連携施設：東邦大学医療センター佐倉病院

所在地：千葉県佐倉市下志津564-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：樋口　哲也

特徴：地域基幹病院であり、大学分院であることから学術的な活動も含めた、高度に専門的な研修を行う。

研修連携施設：地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立多摩総合医療センター

所在地：東京都府中市武蔵台2－8－29

プログラム連携施設担当者（指導医）：加藤　峰幸

特徴：地域基幹病院として地域の中核をなし、関連各科との連携で医療を展開している。

研修連携施設：草加市立病院

所在地：埼玉県草加市草加2-21-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：

特徴：主研修施設の東京科学大学病院の関連施設で地域基幹病院であり、皮膚科一般臨床で外来から入院、形成外科と共に手術を行っている。

研修連携施設：防衛医科大学校病院

所在地：埼玉県所沢市並木３－２

プログラム連携施設担当者（指導医）：端本　宇志

特徴：埼玉県西部医療圏での大学病院・地域基幹病院であり、一般患者や自衛隊員を対象とした診療と学術的な活動を活発に行っている。特にアレルギー診療において高度な研修をおこなう。

研修連携施設：国家公務員共済組合連合会　九段坂病院

所在地：東京都千代田区九段南1-6-12

プログラム連携施設担当者（指導医）：加藤　恒平

特徴：地域中核病院であり、他科との連携を含めた皮膚科研修を行う。

研修連携施設：東京医療生活協同組合　新渡戸記念中野総合病院

所在地：東京都中野区中央４－５９－１６

プログラム連携施設担当者（指導医）：大井　三恵子

特徴：地域基幹病院であり、感染症を含めて幅広い研修を行う。

研修連携施設：地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立大塚病院

所在地：東京都豊島区南大塚２－８－１

プログラム連携施設担当者（指導医）：井上　梨紗子

特徴：地域基幹病院であり、幅広い臨床研修を行う。中でもアレルギー診療と小児診療を特色としている。

研修連携施設：武蔵野赤十字病院

所在地：武蔵野市境南町1-26-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：宇賀神　つかさ

特徴：全国有数規模の地域基幹病院であり、豊富な症例を背景に、他科連携の中で皮膚科研修を行う。

研修連携施設：独立行政法人　国立病院機構　災害医療センター

所在地：東京都立川市緑町3256番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：宮﨑　安洋

特徴：地域基幹病院で救急医療に力を入れている病院であり、他科連携の中で豊富な症例を基盤とした皮膚科研修を行う。

研修連携施設：医療法人徳洲会　湘南藤沢徳洲会病院

所在地：神奈川県藤沢市辻堂神台1-5-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：渡邊　京子

特徴：幅広い地域を担当する地域基幹病院であり、豊富な症例を基盤として実践的な研修を行う。

研修連携施設：横浜市立みなと赤十字病院

所在地：神奈川県横浜市中区新山下３丁目12番１号

プログラム連携施設担当者（指導医）：渡邊　憲

特徴：地域基幹病院であり、がんやアレルギーの診療を特徴としていて、高度な研修を積むことが出来る

研修連携施設：国立がん研究センター東病院

所在地：千葉県柏市柏の葉6-5-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：髙橋　聡

特徴：がんのナショナルセンターであり、手術・化学療法において実地に高度な研修を積むことが出来る。

研修準連携施設：医療法人　徳洲会　湘南鎌倉総合病院 皮膚科

所在地：神奈川県鎌倉市岡本1370-1

研修準連携施設：東京科学大学病院 形成外科

所在地：東京都文京区湯島1-5-45

研修管理委員会に関して

下記で構成する

研修管理委員会委員：

委員長：沖山　奈緒子 (東京科学大学病院　皮膚科診療科長)
委員：盛山　吉弘 (総合病院土浦協同病院　皮膚科部長)
委員：高山　かおる (社会福祉法人恩賜財団　埼玉県済生会川口総合病院　主任部長)
委員：林　周次郎 (学校法人獨協学園　獨協医科大学埼玉医療センター)
委員：田中　厚 (医療法人鉄蕉会　亀田総合病院　部長)
委員：樋口　哲也 (東邦大学医療センター佐倉病院　皮膚科診療科長)
委員：加藤　恒平 (国家公務員共済組合連合会　九段坂病院　医長)
委員：西澤　綾 (地方独立行政法人東京都立病院機構　東京都立駒込病院　皮膚・皮膚腫瘍科医長)
委員：大井　三恵子 (東京医療生活協同組合　新渡戸記念中野総合病院　皮膚科部長)
委員：井上　梨紗子 (地方独立行政法人東京都立病院機構　東京都立大塚病院　医長)
委員：宇賀神　つかさ (日本赤十字社武蔵野赤十字病院　皮膚科部長)
委員：並川　健二郎 (国立研究開発法人　国立がん研究センター中央病院　皮膚腫瘍科長)
委員：宮﨑　安洋 (独立行政法人　国立病院機構　災害医療センター)
委員：渡邊　京子 (医療法人徳洲会　湘南藤沢徳洲会病院　皮膚科部長)
委員：渡邊　憲 (横浜市立みなと赤十字病院　皮膚科部長)
委員：井川　健 (獨協医科大学病院　皮膚科診療科長)
委員：髙橋　聡 (国立がん研究センター東病院　皮膚腫瘍科長)
委員：加藤　峰幸 (地方独立行政法人東京都立病院機構　東京都立多摩総合医療センター　皮膚科部長)
委員：端本　宇志 (防衛医科大学校病院　皮膚科診療科長)
委員：松林　俊佑 (草加市立病院　皮膚科医長)

他科・他職種

委員：野村 恭子 (東京医科歯科大学病院皮膚科看護師長)

研修資源実績（外来患者数・入院患者数・指導医数：本プログラムの按分数）

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数（含生検術）	全身麻酔年間手術数	指導医数
東京科学大学病院	56	10.4	857	17	3.2
総合病院土浦協同病院	14.1	1.8	414	38	0.3
地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立駒込病院	34.9	5.9	851	82	2.4
国立研究開発法人　国立がん研究センター中央病院	1	2	123	124	0.18
学校法人　獨協学園　獨協医科大学埼玉医療センター	13	2	1314	121	0.5
獨協医科大学病院	5	1	609	230	0.5
社会福祉法人　恩賜財団　済生会支部　埼玉県　済生会　川口総合病院	40.6	5.13	703	32	1
医療法人鉄蕉会　亀田総合病院	44.18	0.02	504	0	1
東邦大学医療センター佐倉病院	5	0.5	588	1	0.5
地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立多摩総合医療センター	20	1.3	455	2	0.5
草加市立病院	60	4	263	15	1
防衛医科大学校病院	1	0.1	867	14	0.1
国家公務員共済組合連合会　九段坂病院	22.7	0.3	83	0	1
東京医療生活協同組合　新渡戸記念中野総合病院	36.4	2	164	0	1
地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立大塚病院	31.7	4.8	245	0	0.9
武蔵野赤十字病院	24.1	1.8	416	0	1
独立行政法人　国立病院機構　災害医療センター	30.3	2.9	215	0	1
医療法人徳洲会　湘南藤沢徳洲会病院	79.5	7.1	330	0	1
横浜市立みなと赤十字病院	35.6	5.6	305	0	1
国立がん研究センター東病院	9	2	177	58	0.6
合計	564.08	60.65	9483	734	18.68

D．募集定員：5名

①通常プログラム：2名

②連携プログラム：3名

E．研修応募者の選考方法：

書類審査および面接により決定（東京科学大学皮膚科ホームページ、東京科学大学病院総合教育研修センターのホームページ等で公表する）。応募方法については、説明会・医局で配布する応募書類と履歴書を併せて提出し、面談を設定すること。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。

F．研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G．研修プログラム　問い合わせ先：

東京科学大学病院
沖山 奈緒子

TEL：03-5803-5286
FAX：03-5803-5289
メールアドレス：ikyoku.derm@tmd.ac.jp

H．到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。研修カリキュラム（経験目標）を把握すること。

I．研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。
１．東京科学大学病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後，難治性疾患，稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え，教育・研究などの総合力を培う。また，少なくとも１年間の研修を行う。
２．横浜市立みなと赤十字病院、武蔵野赤十字病院、新渡戸記念中野総合病院、九段坂病院、災害医療センター、土浦協同病院、亀田総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、済生会川口総合病院、都立駒込病院、都立大塚病院、多摩総合医療センター、獨協医科大学病院、東邦大学医療センター佐倉病院、防衛医科大学校、獨協医科大学埼玉医療センターでは，急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践、病診連携を習得し、東京医科歯科大学病院皮膚科の研修を補完する。国立がんセンター病院、国立がん研究センター東病院では、主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期医療を習得する。
３．準連携施設である湘南鎌倉総合病院皮膚科では東京科学大学の指導医との連携下で、また東京科学大学病院形成外科は関連他科での研修として、最長1年間の研修を行う可能性がある。準連携施設で研修する専攻医は、東京科学大学病院皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。また、形成外科で研修を行う場合、皮膚科カンファレンス、抄読会には参加することとする。
大学病院以外のいずれかで，原則として少なくとも１年間の研修を行う（地域研修）。

J．研修内容について

１．研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。 コースは例であり、このどれかに確実に当てはまるわけではない。専攻医本人の希望と研修施設側の事情により進路を決定する。

・通常プログラム

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	連携	連携	連携	連携
c	連携	連携	連携	連携	基幹
d	基幹	連携	国立がんｾﾝﾀｰ中央病院	国立がんｾﾝﾀｰ中央病院	都立駒込
e	連携	連携	基幹	大学院	大学院

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。連携施設は原則として1年ごとで異動するが，諸事情により2年間同一施設もあり得る。最もポピュラーなコースであり、最終年次に研修基幹施設で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補うとともに、subspecialtyの研修を専門外来で行う。また、アレルギー専門医を希望する専攻医は東京医科歯科大学、横浜市立みなと赤十字病院、武蔵野赤十字病院、都立大塚病院、草加市立病院、防衛医科大学校、獨協医科大学埼玉医療センターなどアレルギー学会認定教育施設を主体として研修を行うこともできる。
b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。また、アレルギー専門医を希望する専攻医は、連携施設のうち、横浜市立みなと赤十字病院、武蔵野赤十字病院、都立大塚病院、草加市立病院、防衛医科大学校、獨協医科大学埼玉医療センターなどアレルギー学会認定教育施設を主体として研修を行うこともできる。
c：研修連携施設から研修を開始するコース。研修後半に研修基幹施設で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補うとともに、subspecialtyの研修を専門外来で行う。同様に、アレルギー専門医を希望する専攻医は、後半の東京科学大学を中心に、アレルギー学会認定教育施設を主体として研修を行うこともできる。
d：国立がん研究センター中央病院や都立駒込病院、時には形成外科での研修を組み込み，皮膚外科・皮膚腫瘍専門医を目指すコース。
e：研修基幹施設と地域医療研修を1年以上ずつ終了後に、大学院に進学しながら在

学中に専門医取得を目指すコース。

・通常プログラム

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	連携	千葉・茨城・埼玉県連携施設	千葉・茨城・埼玉県連携施設	基幹
b	連携	連携	連携　千葉・茨城・ 埼玉県連携施設	千葉・茨城・埼玉県連携施設	基幹
c	千葉・茨城・埼玉県連携施設	千葉・茨城・埼玉県連携施設	連携	基幹	基幹
d	基幹	国立がん研究センター東病院	国立がん研究センター東病院	都立駒込	基幹
e	千葉・茨城・埼玉県連携施設	千葉・茨城・埼玉県連携施設	基幹	大学院	大学院

＊連携プログラム枠にて採用されたものは、5年間の研修期間のうち、1.5年以上は特定の地域（限定枠は千葉県か茨城県［亀田総合病院、土浦協同病院］、非限定枠は千葉県・茨城県に加えて埼玉県［済生会川口病院、草加市立病院、秀和総合病院］）にて研修を行う。上記は例であり、研修先施設や時期については、変更となる可能性がある。
a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。連携施設は原則として1年ごとで異動するが，諸事情により2年間同一施設もあり得る。最もポピュラーなコースであり、最終年次に研修基幹施設で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補うとともに、subspecialtyの研修を専門外来で行う。また、アレルギー専門医を希望する専攻医は東京医科歯科大学、横浜市立みなと赤十字病院、武蔵野赤十字病院、都立大塚病院、草加市立病院、防衛医科大学校、獨協医科大学埼玉医療センターなどアレルギー学会認定教育施設を主体として研修を行うこともできる。
b、c：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。特に地方の基幹病院での救急医療などにも従事して臨床技能を向上する。
d：国立がん研究センター東病院や都立駒込病院、時には形成外科や国立がん研究センター中央病院での研修を組み込み，皮膚外科・皮膚腫瘍専門医を目指すコース。
e：研修基幹施設と地方の基幹病院での地域医療研修を重点的に2年間研修した後に、大学院に進学しながら在学中に専門医取得を目指すコース。

・通常プログラム

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
臨床研究医コース	連携	連携	基幹	基幹	基幹

コース初期は連携施設を中心に研修し、後半は基幹施設を中心に研修するとともに社会人大学院生として学位取得を目指した臨床研究にも着手する。

２．研修方法
１）東京科学大学病院皮膚科
外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。
病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。
皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 外来手術	外来	外来 中央手術	外来		

午後	病棟 回診 病理カンファレンス	専門外来 外来手術 病棟	専門外来 外来手術 病棟	専門外来 病棟 専攻医クルズス	専門外来 外来手術 病棟		

2）連携施設

総合病院土浦協同病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診 病棟	外来	病棟	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 外来	回診 病棟		
午後	病棟 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	外来	手術	外来	手術		

※外科系当直を約１回／月、休日・夜間オンコールを約10回/月担当する。

地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立駒込病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として、特に「がんと感染症」に重点をおき、診断、処置・手術法、化学療法や免疫チェックポイント阻害剤などの抗がん剤治療法を習得する。がん薬物療法専門医取得を目指した研修が可能である。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 処置 手術	病棟 病棟ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	手術 病棟	外来 処置 病棟 病理ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	処置 病棟		

※月1階宿直の予定。週3回オンコール。

国立研究開発法人　国立がん研究センター中央病院：
皮膚外科医を目指すコースを選択した場合に限り1年間研修する。皮膚悪性腫瘍患者の手術療法，化学療法，緩和医療を中心に習得する。この期間は東京医科歯科大学病院皮膚科のカンファレンス，抄読会は参加しなくて良い。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟	外来	病棟	外来	病棟 手術		

学校法人　獨協学園　獨協医科大学埼玉医療センター：
埼玉県東部地区の基幹病院であり、悪性血管内皮細胞腫を除く全ての皮膚悪性腫瘍、重症薬疹、水疱症など入院診療が必要な重症皮膚疾患患者の治療を行う。その一方で、鉄道の2駅に隣接するため、第一線の病院としての側面も有し、多数かつ多彩な皮膚疾患患者が受診する。幅広い皮膚疾患を扱っているため皮膚科診療の研修をするには最適な環境を有している。週1回の臨床、病理カンファレンスを行う。形成外科との手術カンファも週1回実施する。年に3回症例検討会を実施する。年に3回以上筆頭演者として学会発表を行う。当院を含めた埼玉県皮膚科医会が関連する講演会、セミナー、皮膚科関連の学会に積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 入院手術	外来	外来 入院手術	外来	外来 入院手術	
午後	外来手術 病棟	回診 臨床・写真・病理カンファレンス・抄読会	外来手術 病棟	入院手術 病棟	入院手術 病棟		
	ミニ回診		ミニ回診	ミニ回診	ミニ回診		

※宿直は4回／月を予定

獨協医科大学病院：
毎週の臨床・病理カンファレンスで症例発表・検討を行い，評価を受ける。 皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、医療倫理講習会、院内感染対策講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。院内他科との症例検討会・研究会に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
	手術	手術	手術	手術	手術		
				カンファレンス			

社会福祉法人　恩賜財団　済生会支部　埼玉県　済生会　川口総合病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，皮膚科全般の診療、やけどや潰瘍などの創傷処置，手術法を習得する。週1回組織カンファレンスを指導医と行う。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に１回以上筆頭演者として学会発表を行い、その内容の論文を作成することを目標とする。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	ﾌｯﾄｹｱ外来 処置・手術 病棟	ﾌｯﾄｹｱ外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 病棟	処置・手術 病棟	手術 病棟	乾癬外来 病棟	処置＊	

※土曜日の処置は入院患者の状態によって必要時。

医療法人鉄蕉会　亀田総合病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。東京医科歯科大学病院皮膚科のカンファレンス，抄読会に３か月に１回参加し学習する。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外勤	外来	外来	外来	
午後	手術 病棟	外来 病棟		外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	外来 病棟	外来 病棟	

東邦大学医療センター佐倉病院：
外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。 病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表・検討を行い，評価を受ける。 抄読会では１回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、医療倫理講習会、院内感染対策講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。院内他科との症例検討会・研究会に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 回診 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟		

※宿直・日直は月2回程度を予定。

地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立多摩総合医療センター：
専攻医として在籍し、外来診療、入院症例担当、手術などを行う。

草加市立病院：
指導医と共に外来、入院症例に当たる。週1回、東京科学大学病院形成外科からの非常勤医師と共に全身麻酔手術の研修も行う。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
	外来	外来	外来	外来	外来		
	外来手術 入院	外来手術 入院	外来手術 入院	外来手術 入院	中央手術		

防衛医科大学校病院：
外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。 経験を積みながら徐々に処置、外来手術などを行う。 病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。 抄読会では１回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。また症例によって病理や膠原病内科など他科とのディスカッションの機会や連携施設とのカンファレンスなどを通して幅広い考え方を学ぶ。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検・処置	外来 生検・処置	外来 生検・処置	外来 生検・処置	外来 生検・処置		
午後	病棟	入院手術 病棟	回診 症例カンファレンス 病理カンファレンス 抄読会 症例検討会	病棟 専門外来	病棟		

国家公務員共済組合連合会　九段坂病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。東京医科歯科大学病院皮膚科のカンファレンス，抄読会に適宜参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に1回以上筆頭演者として学会発表、論文執筆を行い、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 特殊外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 手術	病棟 特殊外来	病棟	病棟 特殊外来		

※特殊外来：アレルギー検査、光線治療、フットケア、多汗症など　※宿直は２回／月を予定

東京医療生活協同組合　新渡戸記念中野総合病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，皮膚科一般の処置，基本的な手術法を習得する。東京医科歯科大学病院皮膚科のカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また論文を年に1編以上執筆することを目標とする。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加し、病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	研究日	外来		
午後	病棟 外来	手術	病棟 外来	大学の抄読会	病棟 外来		

※宿直はなし

地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立大塚病院：
病院規模が500床あり、各科がそろっている中で、皮膚科は地域の中核病院として紹介を受ける患者を診療し、院内のコンサルトに対応することで、感染症からアレルギー疾患、腫瘍や膠原病といった幅広い疾患を経験することができる。特に当院は、総合周産期母子医療・小児医療、リウマチ・膠原病医療といった特徴を掲げるため、関連する皮膚疾患は貴重な経験を積むことが可能である。手術も悪性腫瘍から良性腫瘍の修得が可能であり、皮膚科カンファランスだけでなく、感染症カンファランス、病理カンファランスといった他科、多職種との意見交換、院内の講習会プログラムも豊富であり、総合病院における積極的な皮膚科の役割を担う研修、また皮膚科医として発表や論文作成を行うことを目標としている。日本アレルギー学会の研修施設である。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 手術	病棟 褥瘡回診	病棟 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	宿直※	

※宿直は2～3回／月を予定

武蔵野赤十字病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，入院や手術の必要な症例を対象に、基本的な皮膚科診療の手技を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことを目標とする。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。日本アレルギー学会の研修施設である。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術		

独立行政法人　国立病院機構　災害医療センター：
東京都北多摩地区の中核病院であり、救急車受け入れ台数は全国でも有数で、外科当直を担い手技を学ぶ。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染症講習会、CPCに定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	日直※	日直※
午後	病棟 手術	病棟 乾癬外来 アレル ギー外来	病棟 手術	病棟 発汗外来 褥瘡回診	病棟 乾癬外来 アレル ギー外来		

※宿直は1-2回／月を予定、日直は１回／２ヶ月を予定

医療法人徳洲会　湘南藤沢徳洲会病院：
指導医の下，地域医療の中核病院の皮膚科勤務医として，一般外来、専門外来（レーザー治療、光線治療、美容、フットケア、靴外来など），手術、病棟管理を行う。病院の褥瘡委員会のメンバーとして週１回回診を行う。東京医科歯科大学病院皮膚科のカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来		外来	外来	
午後	手術 病棟	専門外来 病棟	専門外来 病棟	大学での ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ／ 褥瘡回診	専門外来 病棟	病棟	

※当直はなし。　※病理カンファレンスは月１、２回

横浜市立みなと赤十字病院：
横浜市中区の中核病院であり、救急車受け入れ台数は全国でも有数で、外科当直を担い手技を学ぶ。横浜市の施策によるアレルギーセンターの診療に参画しており、日本アレルギー学会の研修施設でもある。皮膚アレルギー疾患以外にも、食物・気道アレルギーの臨床についても学ぶことが出来る。がんセンター・緩和病棟を開設しており、緩和ケア研修会も院内で開催している。PET/CT・化学療法センターを有しており、悪性腫瘍の評価から治療まで一貫して研修する。毎週、病理診断科と合同のカンファレンスに参加する。神奈川県皮膚科医会や横浜市皮膚科医会が主催の講演会など学習機会が豊富である。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 手術	病棟 手術	病棟 褥瘡回診 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 アレル ギー外来		

※日直当直は２回／月程度

国立がん研究センター東病院：
皮膚悪性腫瘍患者の手術療法，化学療法，緩和医療を中心に習得する。この期間は東京医科歯科科学大学病院皮膚科のカンファレンス，抄読会は参加しなくて良い。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
		手術		手術			
午後	病棟	外来	病棟	外来	病棟		
					手術		

3）大学院

皮膚科研究室にて皮膚科に関連する研究を行いながら、診療、カンファレンスなどにも適宜参加し、学会発表や論文発表を行う。専攻医として評価及び年次総合評価を受ける。

4）研修準連携施設

湘南鎌倉総合病院、草加市立病院では現在常勤指導医が不在であるが，地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間に限り勤務することがある。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設に患者紹介や診療相談を行うことにより，病診連携を習得する。

5）研修準連携施設

医療法人　徳洲会　湘南鎌倉総合病院

皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間に限り勤務することがある。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設に患者紹介や診療相談を行うことにより，病診連携を習得する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		

東京科学大学病院

皮膚外科医を目指すコースを選択した場合に限り1年間研修する。この期間は東京医科歯科科学大学病院皮膚科のカンファレンス，抄読会は参加しなくて良い。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
	手術	手術	手術	手術	手術		
午後	手術	手術	手術	手術	手術		

研修の年間予定表

月	行事予定
4	１年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 ２年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	日本皮膚科学会東京地方会
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認） 日本皮膚悪性腫瘍学会（開催時期は要確認）
7	日本皮膚科学会東京地方会
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	日本アレルギー学会学術大会（開催時期は要確認） 日本皮膚科学会東京地方会 試験合格後：皮膚科専門医認定
11	日本皮膚科学会東京支部学術大会（開催時期は要確認）
12	日本研究皮膚科学会年次学術大会（開催時期は要確認） 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会（開催時期は要確認） 研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	日本皮膚科学会東京地方会 ５年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	日本アレルギー学会総合講習会（開催時期は要確認） 当該年度の研修終了し，年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K．各年度の目標：

１，２年目：主に東京科学大学病院皮膚科において，カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1.基本的知識2.診療技術3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識5.生涯教育）を学習し，経験目標（1.臨床症例経験2.手術症例経験3.検査経験）を中心に研修する。
３年目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
４，５年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。３年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、東京地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。
PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L．研修実績の記録：

１．「研修の記録」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。
２．「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
３．専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
４．専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
５．「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特にp.15〜16では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M．研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。
１．専攻医は「研修の記録」のＡ.形成的評価票に自己評価を記入し，毎年３月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
２．専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
３．指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
４．研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検討する。
５．専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」，経験症例レポート15例，手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し，総括評価を受ける。
６．研修プログラム責任者は，研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し，総括評価を記載した研修修了証明書を発行し，皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N．研修の休止・中断，異動：

１．研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
２．研修期間のうち，産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大６ヶ月までは研修期間に認められる。なお，出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
３．諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要が生じた場合，すみやかにプログラム統括責任者に連絡し，中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O．労務条件，労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。
給与，休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2〜3回/月程度である。

2027年5月13日
東京科学大学病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
沖山　奈緒子